

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	図書館・博物館事務管理事業			会計	款	項	目	大	小
				01	10	05	07	01	03
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	図書・博物館				
施策	3-1	いつでも、どこでも、誰もがができる生涯学習の推進		主管課長	小栗 信一郎				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	図書館・博物館利用者	意図	円滑な事務管理を行い、適切な窓口サービスを提供する。
事業内容	図書館及び博物館の庶務的事務を効率的に行う。また、指定管理各館との調整や再選定業務を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成27年度から指定管理施設数が3から4に増え、業務が増加している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 図書館及び博物館に関する庶務的事務を支障なく運営することにより、利用者のサービスに寄与することができた。
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)	14,797,940	14,394,014	13,849,790				
事業費(b)(円)	4,538,190	4,325,514	4,562,600				
うち一般財源	4,538,190	4,325,514	4,562,600				
職員給与費(c)(円)	10,259,750	10,068,500	9,287,190				
人役・職員(人)	1.25	1.25	1.32				
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)	1.50	1.50	0.33				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	図書館及び博物館の日常業務を滞りなく進めるため、伝票事務、借上契約事務等今後も継続して効率的な事務管理を行う。	③取組における課題(Check)	休日が本庁と異なることから伝票の作成、入力期限、決裁等に注意を要する。
②H30に実施した取組(Do)	自動車・複写機・電話機器等の借上げや各種負担金事務等を効率的に行った。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	伝票事務、借上契約事務等については、今後も継続して事務の効率化を図る。